

学習実態調査結果の分析

学習を成立させる基盤となる様々な力をまとめて「学びの基礎力」と考え、次の4つの領域に分類した。

- ・「生活体験等」
家庭・学校・地域等において、ふだん生徒が経験する様々な活動や事象
- ・「学びに向かう力」
学習成立にとってのいわば「原動力」ともいえる「感じ取る力」「学習動機」、そしてそれらと密接な関係をもつとされる「自己効力感」など
- ・「自己学習力」
学習を効果的・効率的に進めるとともに、生涯にわたって自ら学び続ける上でのベースとなる「学習上のスキルや態度」「自宅学習習慣」など
- ・「自己コントロール」
上記の「学びに向かう力」や「自己学習力」を方向付け、その遂行に向けて自らの学習行動を制御していく機能

学習実態調査（「学習についてのアンケート」）の設問項目のうち、上記の「学びの基礎力」を構成する4つの領域にかかわる項目について分類・整理し、平成14年2月に国が実施した「教育課程実施状況調査」及び平成15年1月に県が小学校5年生を対象に実施した「学習実態調査」の結果も交えながら分析を行った。（以下の本文中の（ ）内の数値は本県の小学校5年生の調査結果である。また、文中「小学生」とあるのはこの調査対象の5年生を指す。）

1 「生活体験等」について

（1）直接体験

「家族から仕事のやりがいや苦労について話を聞く」は42.8%（43.7%）であり半数以下にとどまっている。進路意識が高まる中学生のこの時期には家族から仕事の話を知ることが大変意義深いことであり、家庭からの働きかけも大切であると考えられる。

また、小学生に比べ、直接体験をしている生徒の割合がどの設問においても減少している。

（2）読書・メディア体験

「新聞のニュース記事を読む」、「インターネットを使って何かを調べる」、「手紙やはがきを書く」体験を授業時間以外に行っていると回答した生徒の割合は、それぞれ49.0%（54.2%）、63.0%（49.3%）、47.7%（51.2%）である。一方、それらを全く行っていない生徒の割合は、それぞれ16.1%（13.8%）、17.4%（23.9%）、28.1%（18.6%）となっている。中学生にとって、情報を入手する手段としてインターネットがより身近なものになっている状況がうかがえる。

1か月間の読書状況をみると、3冊以上読んでいる生徒は全体の26.7%（64.1%）となっている。一方、本を全く読まないという回答した生徒の割合は23.4%（7.5%）であり、小

学生と比較して割合が高い。読書の楽しさを知り、読書習慣が身に付くような取り組みをさらに工夫する必要がある。

(3) 他者との支え合い

家族とのかかわりについては、「自分のことを気にかけてくれている」と感じている生徒の割合は86.6%(88.3%)である。一方、「学校でのできごとなどについて自分から家族に話をする」生徒は63.8%(76.7%)であり、さらに14.4%(7.1%)の生徒が自分から学校のできごとなどを家族へ話していない実態もある。

また、「学校の先生は自分たちの話をよく聞いてくれる」と思っている生徒の割合は65.7%(82.5%)であり、「自分の考えや気持ちを理解してくれる友だちがいる」と回答した生徒は87.2%(85.1%)である。

これらのことから、中学生にとっては家族や先生よりも友だちとのかかわりが高い様子がうかがえる。

(4) 基本的な生活習慣

「朝自分で起きることができる」生徒は、全体の66.6%(65.4%)であるが「あてはまらない」と回答した生徒が12.2%(11.1%)いる。また、「朝食は毎日食べている」と回答した生徒の割合は90.0%(92.2%)であり、国の調査結果88.6%と同程度の割合である。

2 「学びに向かう力」について

(1) 感じ取る力

『ふしぎだな』『なぜだろう』と感じることが多い」生徒は62.2%(64.4%)であり、小学生とほぼ同じ割合である。

「本などから人の生き方に感動したりしている」生徒は74.6%(62.2%)であり、小学生に比べ割合が高まっているのに対し、「勉強することがおもしろい、楽しいと思うことがよくある」と回答した生徒は32.2%(62.8%)と割合が低下している。勉強のおもしろさや楽しさを感じられるような授業づくりなど、より一層の工夫が求められる。

(2) 学習動機

「勉強すれば、自分のふだんの生活や社会に出て役に立つ」と思う生徒の割合は71.8%(88.4%)であり、国の調査65.9%より高い割合であった。「勉強して何かが分かるようになることはうれしい」、「勉強してもっと力や自信をつけたい」と回答した生徒の割合も、それぞれ85.0%(88.4%)、79.8%(84.1%)と高い割合を示している。さらに、「友だちに負けないようにがんばって勉強したいと思う」と回答した生徒も71.6%(78.7%)である。

(3) 自己効力感

「自分はやればできる」と思っている生徒の割合は76.6%(81.2%)である。一方、「努力をして最後までやりとげた経験が多い」と回答した生徒は57.1%(72.4%)であった。

また、「自分の意見や行動はまわりの人に良い影響を与えている」と回答した生徒は37.2%であり、問8の「自分は周りの人から認められていると思う」と回答した生徒

も37.0%(37.6%)であることから、他者とのかかわりの中での自分自身への評価を低く受けとめている傾向がみられる。

(4) 自己責任

「良い成績をとれるよう、勉強したいと思う」と回答した生徒は、全体の83.1%である。また、「成績が悪かったときは、自分の努力が足りなかったからだと思う」、「同じまちがいをくり返さないように気をつけている」と回答した生徒の割合は、それぞれ88.3%(86.6%)、71.7%(85.3%)となっており、学習への意欲がうかがえる。一方、「がんばって勉強したときは、自分をほめたい気持ちになる」生徒は62.4%(65.0%)で他の設問に対してやや低い割合である。

3 「自己学習力」について

(1) 学習スキル

「黒板に書かれなくても大事なことや気づいたことはノートに書きとめている」、「図表や記号を使うなど、工夫してノートを整理している」と回答した生徒は、それぞれ48.3%(49.2%)、54.7%(55.8%)にとどまっている。また、「友達や先生から聞いた勉強のやり方を参考にしようとしている」、「テストで間違った問題はやり直している」生徒もそれぞれ59.0%(80.6%)、40.5%(73.2%)であり、小学生に比べ低い割合である。

(2) 学習定着の方略

「新しく習った漢字や計算は何度もくり返し練習している」、「授業で習ったことをふだんの生活と結びつけて考えている」と回答した生徒の割合は、それぞれ27.2%(51.7%)、26.8%(59.1%)である。また「授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく、その理由や考え方もいっしょに理解している」生徒の割合も39.4%にとどまり、進んで学習の定着を図ろうとする生徒の割合は低い。

(3) 学習計画力

「ふだんから計画を立てて勉強している」生徒が15.6%(39.2%)であることから、自ら計画を立てて学習に取り組めていない実態がうかがわれる。

(4) 自宅学習習慣

「授業で習ったことは、その日のうちに復習している」と回答した生徒の割合は12.8%(29.4%)であり、「家族に言われなくても自分から進んで勉強している」生徒は46.0%(66.5%)である。また、宿題については73.3%(88.9%)の生徒が「きちんとやっている」と回答している。

このことから、自宅での学習習慣は身に付いている生徒が多いが、その内容は宿題が中心であり、復習など自ら学習課題を設定して取り組む生徒は少ないことがうかがえる。

4 「自己コントロール」について

(1) 学習継続力

「何ごとに対しても、こつこつと努力している」、「分からないことをそのままにせず、

分かるまでがんばる」「自分のなまけ心に打ち勝とうとしている」と回答した生徒の割合は、それぞれ48.2%(70.8%)、49.3%(73.6%)、53.1%(70.3%)となっている。また、「当てはまらない」と回答した生徒がそれぞれ1割程度おり、学習に対する実践力、継続力を高めていくことが課題である。

(2) 学習のけじめ

「勉強するときはしっかり勉強し、遊ぶときはしっかり遊んでいる」、「勉強に集中していて、いつのまにか時間がたっていることがある」と回答した生徒の割合はそれぞれ、58.9%(80.5%)、56.6%(72.0%)であった。

(3) 話す・聞く姿勢

「人の話は最後まできちんと聞くようにしている」と回答した生徒の割合は71.7%(77.8%)で、努力している生徒が多いことがうかがえる。一方、「相手の目を見て、はっきりと話すようにしている」と回答した生徒は55.2%(63.9%)となっている。

5 「その他」の項目について

(1) 問題解決力

「自分が調べてみたいことについて、活動の計画を立てることができる」と回答した生徒は31.9%(51.4%)であり、「当てはまらない」と回答した生徒が24.5%(13.5%)いることから、主体的な学習や生活の設計ができにくい生徒が多いことがうかがえる。また、「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」と回答した生徒も41.0%(55.4%)にとどまっている。

(2) 社会的実践力

「自分の見方だけでなく、異なる立場の意見も尊重している」、「人のために役立つことをするように心がけている」、「地域の活動や行事に参加する」と回答した生徒の割合はそれぞれ、56.0%(64.7%)、64.2%(70.9%)、54.6%(68.4%)であった。

(3) 豊かな心

「いつも新しいアイデアを考えたり、工夫したりしている」と回答した生徒の割合は46.6%(55.2%)と低い、「自分がやらなければならないことは、責任をもってやりぬくことができる」、「楽しいことを見つけることが得意である」と回答した生徒の割合はそれぞれ75.3%(71.9%)、63.6%(70.8%)である。

しなくてはいけないことに対する責任感はあるが、新しいことへの取り組みに対しては、やや消極的な面がみられる。

(4) 自己成長力

「自分の能力をできるだけ伸ばしたい」と思う生徒の割合は90.0%と高いが、「将来の夢や目標をもっている」と回答した生徒は66.8%(79.6%)にとどまっており、ガイダンス機能の充実を図り、生徒が目標を見つけることができる指導が望まれる。

また、「自分はまわりの人から認められていると思う」と回答した生徒は37.0%

(37.6%)であり，さらに同設問に対して，「あてはまらない」と回答した生徒が19.3% (20.9%)いる。

(5) 部活動

「部活動に積極的に取り組んでいる」生徒の割合は76.4%であるが，「あてはまらない」と回答した生徒も12.1%いる。

(6) 登校意欲

「学校へ行くのが楽しい」と回答した生徒の割合は76.5%(80.1%)であり，国の調査<「学校が好きだ」66.5%>に比べて高い割合を示している。

(7) 学校以外での勉強時間

学校以外での勉強時間については，「1時間以上している」生徒の割合は53.9% (51.6%)で，国の調査51.3%とほぼ同等の割合であった。また「ほとんどしていない」生徒の割合は15.0%(7.3%)で，国の調査17.1%を2.1ポイント下回っている。

(8) 授業の中で分からないことがあった時

「授業の中で分からないことがあったら，どうすることが多いですか」という質問については，回答の割合の高い順に「友達にたずねる」「自分で調べる」「家族の人にたずねる」「先生にたずねる」「塾・家庭教師の先生にたずねる」であった。一方，23.3% (10.5%)の生徒が「そのままにしておく」と回答しており課題が残る。

(9) 情報を得るためにふだんしていること

「テレビのニュース番組を見る」と回答した生徒の割合が最も高く，88.3%であった。以下5割弱の割合で「本や雑誌を読む」「友だちや家の人にたずねる」「新聞を読む」「インターネットを利用する」の順であった。